

ホタルのニュースレター

日本ホタルの会 2024/3 第 101 号

2024 年度会費徴収の停止及び 日本ホタルの会のこれからについて

日本ホタルの会 会長 本多和彦

日本ホタルの会会員の皆様、日本ホタルの会会長の本多和彦でございます。会員の皆様には、平素より当会の活動にご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、このニュースレターにおきまして、重要なお知らせをお伝えさせていただきます。日本ホタルの会は、2024 年度を「日本ホタルの会のこれからについて」検討する一年とさせていただき、ニュースレターの発行、観察会、シンポジウム、談話会等の開催を原則行わないことといたします。それに応じて、2024 年度会費の徴収を行わないこととしましたので、併せてお伝えします。皆様のご理解とご協力をお願ひいたします。

日本ホタルの会は、ホタルを身近な自然の象徴ととらえ、ホタルの住む環境こそが重要であり、そういった身近な自然環境の保全に努力し、ホタルの住む環境を保全・再生したいと考え、1992 年に発足しました。それ以来、多くの会員の支援の下、ニュースレターの発行、ホームページの公開、シンポジウムや観察会、談話会の開催など、ホタルが生息する身近な自然について、情報発信や意見交換の場の提供など活動してまいりました。コロナ禍の時期においても、ニュースレターを発行し、オンラインにより各種イベントを継続してきたところです。そして、2022 年に 30 周年を迎えた、対面とオンラインによるシンポジウムを実施いたしました。

しかし、こうした活動を継続しているものの、観察会、シンポジウムの企画に際しては、会員等のニーズをつかめず、企画立案に苦慮してきていました。

加えて、知恵を絞って、ホタルと身近な自然を取り巻く話題を考えつつ、各種イベントを開催しても、参加者は減少する一方となっています。会員数も減少傾向の横ばいであり、当会を取り巻く環境の変化、スタッフの固定化と高齢化、予算・マンパワーの不足などについて、真剣に考え、会のあり方や活動の継続について、検討すべき時が来たと考えています。

日本ホタルの会は、前述の理念の下、情報を発信するとともに、多様な関係者と意見を交わす場として、活動してきました。しかし、ホタルに関する知見は広く知られるようになり、環境に関する考え方も「生物多様性の保全」に示される方向へと進んでまいりました。インターネット等情報ツールも 30 年前とは比較にならない発展を遂げており、そういった意味では、これまでの日本ホタルの会は、その役割を終えたのかもしれないと考えています。

この 30 年において、日本ホタルの会を取り巻く環境は大きく変化しましたが、身近な自然に関わる課題に変わりはなく、生物多様性の保全が重要とされながらも様々な形で里山の荒廃が進む現状を考えると、まだ、日本ホタルの会が、お役に立てることがあるのではないかと思います。こうしたことを踏まえ、まだ余力のある今、日本ホタルの会のこれからを考えています。

会員の皆様にも、種々お考えがあると思います。ご意見につきましては、日本ホタルの会にメールでお寄せ下さい。会員の皆様のご意見として、検討の中に加えていきたいと考えます。よろしくお願ひいたします。

なお、いただきましたご意見の一つ一つに回答することは困難と思いますので、ご了承ください。



第 3 回 日本ホタルの会シンポジウムの様子。1994 年 9月 19 日に大阪国際交流センターで開催されました。日高敏隆会長（当時）の基調講演が行われました。講演内容は、当会ホームページの「会員専用ページ」から閲覧できます。設立当時の思いを伺うことができます。

事務局からのお知らせ

来年度の活動について

日本ホタルの会は今年度で発足 31 年目となり、ニュースレターも 101 号となりました。現在の会員数は 60 名程ですが、シンポジウムや観察会などのイベントへの参加者数は減少しており、スタッフと講演関係者ばかりという状況が続いています。環境問題への意識や会員のニーズも 30 年前とは大きく変わっており、当会の活動を考え直す時期に来ていると感じています。そのため、来年度は「日本ホタルの会のこれからについて」を検討するため、次のような活動内容と致します。

- ・会員、非会員からの問い合わせや講師の派遣依頼、委託事業については、これまでと同様に対応する。
- ・シンポジウム、観察会、談話会のイベント、ニュースレターの発行は、原則、行わない（会員からの要望があり、リモートでの開催が可能な場合は検討する）。
- ・2024 年度の会費は徴収しない。
- ・会員より当会のこれからについての意見や要望を受け取り、役員会にて検討する。
- ・新役員体制を構築し、今後の活動方針を検討する。
- ・「日本ホタルの会のこれからについて」の検討結果と今後の活動方針については、来年度末までにニュースレターで報告する。

会員の皆様におかれましては、来年度の活動内容についてご理解を頂きますと共に、「日本ホタルの会のこれからについて」のご意見やご要望を承りたいと存じます。つきましては、事務局宛のメール（hotarunokajimukyoku@gmail.com）または、ホームページ（<https://www.nihon-hotaru.com>）の「お問い合わせ」からお送り下さいますよう、お願い申し上げます。

会員専用ページへの登録のお願い

日本ホタルの会ホームページの「会員専用ページ」から、以下のコンテンツが見られます。ぜひ、会員登録の上、ご視聴いただきまして、当会のこれからについてのご意見等をお寄せください。

- ・日本ホタルの会 30周年記念シンポジウム（2022年12月11日開催）

「ホタルを取り巻く諸環境の30年を振り返り、そして未来を考える」

- ・オンライン談話会（2022年3月12日開催）

「ホタルと光害について－ホタルへの影響と対策例－」

- ・機関誌「ホタルと人里」 1号～8号

シンポジウムの講演内容（第1回～8回）と寄稿論文が掲載されています。発足当時の役員の方々の思いが語られています。

- ・「ホタルのニュースレター」 創刊準備号～100号

30年間の活動の歴史を振り返ることができます。

会員登録の手続き

1. 当会ホームページ (<https://www.nihonhotaru.com>) のホーム画面右上に「会員専用ページ」があります。そこから入って頂き、パスワード登録（名、姓、メールアドレス、パスワードの入力）をお願い致します。
2. 入力後、画面下の「送信する」のボタンをクリックしてください。
3. 会員確認のメールが、登録のメールアドレスに届きますので（数日かかることがあります）、その後、アクセス可能となります。
4. アクセスの際は、「会員専用ページ」から入って頂き、メールアドレスとパスワードを入れて、「Log In」ボタンをクリックしてください。
5. 次に、「ログイン」画面が出てきます。「Facebookでログイン」、「Google+でログイン」ではなく、「メールでログイン」のボタンをクリックして、入室してください。

国際自然保護連合 ホタル スペシャリストグループの紹介

国際自然保護連合 (International Union for Conservation of Nature and Natural Resources, IUCN)は、国家、政府機関、NGO などで組織された国際的な自然保護団体で、全地球規模での野生生物の保護、自然環境・天然資源の保全等に関する調査、勧告、支援等を行っています。この組織の「種の保存委員会, Species Survival Commission」の中に「ホタル スペシャリストグループ, IUCN SSC Firefly Specialist Group」があります。

このグループの活動としては、世界中のホタルの分布、個体数の規模、自然環境などを調査し、絶滅の脅威と危険因子を特定し、ホタルの生態、多様性に関する知識を増やして、長期的な保全活動を促すこととあります。この活動自体が、特別にユニークであるというわけではありませんが、ホタルについて世界中で同じように感じている人たちが、それぞれの情報を共有して、世界に向けて発信しているところに意義があるよう思います。

「IUCN SSC Firefly Specialist Group」でネット検索するとこのサイトが出てきます。今では、ブラウザ上で翻訳されて見られますので、一度閲覧してみてはいかがでしょうか。当会のこれからを考える上でも、参考になるかと思います。

なお、IUCN からは、「再導入とその他の保全的移植に関するガイドライン（和訳）」も出されています（<https://www.env.go.jp/content/900491553.pdf>、環境省のホームページ）。

ホタルのニュースレター（第101号）

2024年3月25日発行

編集 日本ホタルの会事務局

発行 本多 和彦

〒239-0824 神奈川県横須賀市西浦賀 4-11-2-404

本多方（日本ホタルの会事務局）



e-mail: hotarunokaijimukyoku@gmail.com

ホームページ：<https://www.nihon-hotaru.com>

Facebook: <https://m.facebook.com/nihonhotaru>

印刷：青森ヨコ二一印刷 東京都中野区江原町 2-6-2